

みんなのページ

身の回りの出来事などを500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。
■あて先 〒950-1292 白根市大字白根 1235 白根市企画財政課広報コミュニティ係

北越詩話にみる白根の人

川村正史
(六十一歳・上赤彦)

坂口五峰(坂口安吾の父)が三十余年情熱をそそいだ北越詩話は、上杉謙信の少し前の時代から、良寛、有願を経て、吉田東伍に至るまで、越後の国で、漢文や漢詩に優れた人々の作品と人物評を著わした一大著作です。
その集録人数は本巻で九百二十二人。補遺の巻で百七十四人に及びます。そのうち、白根にゆかりのある人は、釈大舟(茨曾根、永安寺)ほか三十四人。人数の多少は別としても、この白根に、これだけの有識者が生まれたという事実は、なんとも心楽しい限りです。
おいおいゆかりの足跡を巡り、先人の遺徳に触れてみたいものです。また参考までに、大方の人たちの作品や人物らの概略は、白根市史巻七通史文

広報クイズ

図書券が当たる!

はがきに答え(完成図は不要です)住所、氏名、年齢、市や広報紙への意見(市から回答が必要な場合は、その旨)を書いて、6月20日(金)必着で白根市企画財政課広報コミュニティ係(〒950-1292 白根市大字白根)へお送りください。*EメールでもOK。
正解者の中から抽選で3人に500円の図書券、5人に粗品を差し上げます。正解者の発表は7月1日号で行います。5月1日号の正解はセンソウ。正解者は19人でした。▼図書券 川崎涼(川前)、鈴木詠子(大通南2)、土田みゆき(大通南4) ▼粗品 五十嵐彩(庄瀬7)、豊田由記子(白井)、田中睦(南新町)、樋口雄登(庄瀬7)、安田萌子(大通南4) ※敬称略

◆ヨコのカギ

- 1 夜、魚を誘うためにたく火
- 4 サッカー日本代表の監督
- 6 クローズを反対から読むと
- 8 世界規模の、○○○○@な活動

◆タテのカギ

- 1 自分の思う事を通そうとする心
- 2 新型肺炎
- 3 木製の縦笛、今はプラスチック製が主流
- 5 EXCEL
- 7 河豚

□の字をならべてください。
ゴジラ、ニューヨークで暴れる

芸の欄に詳しく書かれています。ご覧になってみてください。

蘇州を訪ねて

池田謙治
(六十四歳・親和町)

「月落ち烏啼いて霜天に満つ…」唐の詩人張継が詠んだ「楓橋夜泊」の詩で知られる寒山寺、「蘇州夜曲」でなじみのある蘇州を中心に、江南の地を訪れました。この地方は、「吳越同舟」ということわざのある吳と越の国が、崩権を争った地域で、今でも歴史的建造物が数多く残されており、蘇州は、外城河と呼ばれる運河が街を取り囲み、石橋が架かり、小舟が浮かぶ水路は、かつて「水の都、東洋のベニス」と言われました。しかし今では、汚れた生活用水が揚子江を通じ、この運河にも流れ込むため、悪臭を放つ場所もあります。いかに「水の清らかさ」が大切であるかを考えさせられました(信濃川、中之口川の清流をい

口事件や瀋陽事件のためか、入国審査が厳しくなったと感じた次第です。



おもいやり

横山直子
(四十九歳・上茨)

一人暮らしの
おじいさんが亡くなった。
話し相手の二ひきの猫を残して…。
生涯現役の桃・梨作りの
名人だったおじいさん。
桃や梨の花が咲き
お通夜のときより
おじいさんを思い出す。
あんまり仲良しでなかった
二ひきの猫が寄り添って
おじいさんの庭で鳴く。
「おじいさん、
いつ帰ってくるの?」と。
遠くに住む娘さんや
お隣の方々のおもいやりで
二ひきは…元気です。

健康づくり

基礎調査シリーズ②

市民のストレスは?

二回目の健康づくり基礎調査シリーズは、前回に引き続き、白根市健康づくり推進計画「健康しろね21(仮称)」の策定に向けた「市民健康実態調査」の成人の健康実態調査から、「ストレスの程度と対処法」についてです。
■調査結果
図1からは、男女約20%の人が、ストレスを大いに感じていることが分かります。平成十二年厚生労働省が実施した全国調査結果、男性10・8%、女性12・8%と比べると、白根市はストレスを大いに感じる人の割合が、全国より多いことも分りました。

図2は、ストレス対処法を示しています。男性は「アルコール飲料(酒)を飲む」「テレビやラジオを聞く」が約6割、女性は「人に話して発散する」

図1 最近1カ月間のストレスはどの程度ですか?

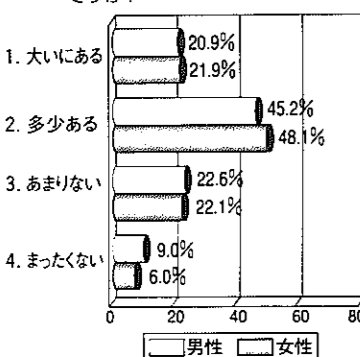
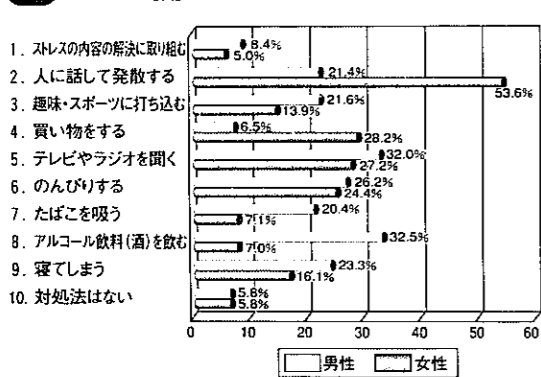


図2 ストレス対処法はどんなことですか?(複数回答)



保健福祉課
☎237

中央大

俳句
車椅子押して散歩の春帽子
なほざりの庭の丁字の花さかり
春愁の下手な口笛聞いており
折鶴の窓辺に揺れて春の風
初蝶の低くとびきて低く去り
榛の木の空澄々と遠霞
鹿線の枕木埋もれつくつくし
雪洞を灯し開花を心待ち
落ちてゆく夕陽に染まり春の雲
ゆるやかに動くともなく花筏
めらめらと燃ゆるが如く牡丹の芽
罅割れを掻き分け芽出る蓬かな
立ち読みも楽しみのうち書肆の春
シャボン玉消ゆれば只の春の空
花むしろ酒酌む人や酌まぬ人
さざ波に太陽ゆれて夏近し
腰なだめ腰伸してや猫の恋
葉作りを探して雉の雄雄かな
雌しべ雄しべ村をうずめる桃の花
大風の歓声あがる五月空
残雪の地割れのぞめばごっこばな
川村まさし
五十嵐理恵
相田 照子
木村 トリ
和泉 伸子
堀内ナナ子
小林 光子
五十嵐寛吾
細貝 漢子
本間しげ子
古川 綾
安澤 飛浪
小林 すみ
勝山 絢子
空條 雪夫
石黒 陽子
小林富沙子
小林 なお
知野信一郎
真嶋つぎえ
石口十四二
渡辺 勤

短歌

亡母の故里野蒜摘みしたころ想ひ
緊張も背負いてカバン揺らし行く孫を見
送る影消ゆるまで
先駆けて春の扉を出て来しか雪かぶり咲く雪割草
我が里に生まれ変りし新設校学べる子らの未来をたくす
陽だまりに童等集い縄飛びに興じる声ばかりに明るし
バーゲンと春の新作見定めぬころわずかに高ぶらせつつ
村はずれ並ぶお地蔵様みつ御利益あれやと今日も手を合す
桜散り草木芽吹き四季のいとなみ農作業をも多忙にて
川柳
ハードルを下げて自在な風に逢う
名も金も要らぬ無欲な喉仏
立ち喰いのパンで済ましている昼餉
朝顔がそわそわしている前夜祭
弛緩する脳へ重たい古語辞典
ふるさとの味を消している近代化
粗食でも笑顔の膳が福を呼ぶ
人徳に弔問客があふれる。
おっとりともも頑く老いの道
戦勝の糸を肴に酒弾む
年金で命を繋ぐ日を繋ぐ
西条 ムラ
吉川 彰
山岡 フミ
今井 七郎
織田 セツ
大谷 龍吉
河内 勝哉
田村 恒夫
田中 弘子
中村 尚治
今井八重子